

平成29年度 佐賀県農業大学校 評価表

教育目標	▶ 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 ▶ 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	達成度
重点目標	1.できるだけ多くの優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上 3.全ての学生の進路決定 4.社会人からの就農者の確保 5.農業者研修の充実	A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80%以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 できるだけ多くの優秀な入学者の確保	・受験者数	・受験者50名以上	農大の情報の提供 ・ホームページを各専攻月1回以上更新 ・講義・実習等の週1回以上の写真撮影 ・校内でのホームページ操作研修会の開催 各機関・団体への周知 ・全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 ・県広報紙への掲載 ・全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 ・農大の募集説明会への参加 10校以上 ・高校への進路ガイダンスへの参加 10回 ・地区別懇談会・同窓会や農業士の活用 農業系高校等との連携強化 ・農業系高校連絡会議の開催 2回 ・農業系農場長との意見交換会 1回 ・農大への現地研修の受け入れ及び農業系高校への出前授業への積極的参加10回以上 ・高校生の農大施設訪問3回 ・未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的情報提供	○受験者は 27名(推薦・一般入試志願者) ・ホームページは概ね毎月1回更新 ・農産物直売や実習等週1回の撮影 ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼し、3JA、3市町で掲載 ・各普及センターの広報紙に掲載 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取り ・募集説明会を開催し、農業系高校を中心に6校の参加 ・農業系高校を中心に12回参加 ・PR用クリアファイルを作成し、ガイダンスやオープンキャンパスで配布 ・地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集推進 ・農業系高等学校長との連絡協議会開催(1回) ・農業系高校を中心に募集説明会開催(1回) ・農業系農場長との意見交換会(1回) ・農業系高校への出張講義(延べ11回) ・農校生(高志館・伊万里農林)の農大施設訪問(4回) ・未来さが入塾、生徒と農大生との交流(1回)	D	・多くの受験者を確保できるよう入試時期を早め、優秀な学生の確保に努める ・オープンキャンパス、高校の進路ガイダンスや農業高校への出張講義での農業大学校の広報推進 ・農業系高校等の農大施設訪問の受け入れ ・未来さが塾の入塾生等との交流推進 ・各機関・団体との連携強化および情報共有	○受験者の確保が不十分 ・オープンキャンパス参加者を受験につながるような方策が必要 ・オープンキャンパスでの最新の機器、施設等の紹介を行う必要(ドローンの研修など) ・高校において、女子生徒の割合が高まっているため、6次産業化などの加工実習のPRに力点においては
	・オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	農業系高校等との連携強化 ・農業系高校連絡会議の開催 2回 ・オープンキャンパスの開催 3回 ・在校生との交流会の実施 農大の情報の提供 ・ホームページを各専攻月1回以上更新 ・講義・実習等の週1回以上の写真撮影 ・校内でのホームページ操作研修会の開催 各機関・団体への周知 ・全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼 ・県広報紙への掲載 ・全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付	・農業系高等学校長との連絡協議会開催(1回 再掲) ・農業系高校を中心に募集説明会開催(1回 再掲) ・オープンキャンパスの開催(3回目) 6/11 20名、8/27 22名、3/11 5名予定 ・オープンキャンパス時に在校生との交流 ・ホームページは概ね毎月1回更新 ・農産物直売や実習等週1回の撮影 ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼し、3JA、3市町で掲載 ・各普及センターの広報紙に掲載 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取り	A	・高校1、2年生からも農大に関心を持ってもらえるようオープンキャンパスの参加を幅広く呼びかける	○達成できている

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	高い技術力や経営力の習得	【農産・露地野菜】 栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合80%以上	・栽培圃場における日頃からの観察の実施と栽培管理日誌の記帳 ・学生による栽培暦の作成 ・農業試験研究センターの関連研究担当における現場実習（3回以上） ・農業試験研究センターとの連携によるプロジェクト課題の実施（2課題） ・専門的知識に関する勉強会の実施 2回 ・新規品目の導入及び試作（2品目）	・実習では栽培日誌やノート等の記帳をさせた。 ・卒論の品目について栽培暦の作成をさせた。 ・農試から玉葱べト病の試験の結果及び対策について講話 ・有機キャベツ実証圃試験説明、見学 ・水田用除草剤およびドローンの活用についての講話、冬作圃場排水対策について現地説明 ・農業検定2級勉強会4回 ・ズッキーニの栽培を2品種 ・ジャガイモのアンデスレッド、サツマイモのからゆたかの新規品目試験栽培 （技術習得到達した学生の割合は100%）	A		
		農業機械の基本操作と維持管理方法の習得 ・一連の作業が機械で出来る到達した学生の割合80%以上 ・主要な農業機械の作業点検等ができる 到達した学生の割合100%	・実習時間内における農業機械の操作実習年間10時間以上 ・トラクターやコンバイン等、主要な農業機械の作業点検方法の実習	・農業機械の操作については、基本的な操作が出来る。 （技術習得到達した学生の割合は100%） ・トラクタ耕うん代かき、田植機での移植、及びライスセンター機器の基本的な整備と操作が出来る。 （技術習得到達した学生の割合は100%）	A	・画像を用いた作業日誌の作成。入力システムの選定 ・低コスト新技術、ドローンや圃場管理システムなどICT活用技術に関する情報収集 ・県普通作部会への参加による最新情報の収集。	○達成できている ・GPS機能付き機器を取り扱うメーカーとタイアップして最新機械の用途を教示しては ・飼料稲を取り組むプロジェクトを行ってもよいのでは
		経営管理能力の向上 ・水稻を中心とした栽培技術及び経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合100% ・タマネギを中心とした経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合100%	・プロジェクト課題における水稻の省力・低コスト栽培技術、及び環境保全型農業について、経営分析と販売戦略（直売の活用）を検討する。 ・29年産タマネギの経営分析及び28年産との比較検討	・水稻の省力・低コスト技術として短期苗、環境保全型農業として有機栽培を取り上げ、収穫までの実証に成功した。 経営分析および販売については直売や全国事例を収集し、シミュレーションや試算を行わせた。 （習得到達した割合100%） ・2年生を中心に今年度収穫したタマネギをもとに収支計算書を作成した。 （習得到達した割合100%）	A		

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得 資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 栽培管理技術の習得 ・環境制御技術の習得できる学生の育成 80%以上	・IoT機器を活用した環境管理 ・統合環境制御活用研修会の開催 3回	・導入状況 統合環境制御ハウス 160㎡×2棟 ・ハウス内環境測定装置(e-kakashi 親機2台・子機6台) ・統合環境制御活用研修会3回 環境制御技術の習得ができる学生の育成 (習得到達した割合90%)	A	・小葱などの葉菜類を専攻する学生にも環境制御技術に関心をを持たせる。 ・複式簿記を研修する時間を確保する。	○達成できている
		経営能力の向上 ・担当する品目の収量及び所得の把握ができる 到達した学生の割合 80%以上 ・農業簿記による経営管理手法の習得	・ゼミ開催によるインターネット、統計資料等の利活用 10回以上 ・指導機関(農技防、農試等)からの指導助言 卒論設計検討会1回、中間検討会1回 ・毎月経営記帳用紙の配布 週1回 記帳分析による所得計算の指導助言 ・農業簿記の理解を深めるための研修会開催 開催回数 6回以上 ・農業簿記検定の過去問の活用	・ゼミ開催によるインターネット、統計資料等の活用(15回) ・指導機関(農技防、農試等)からの指導助言、5月卒論設計検討会、1月野菜研究室見学、3月中間検討会(計3回) ・経営記帳用紙の配布(毎週1回) ・農業簿記研修会(7回) (習得到達した割合100%)	A		
・高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	【花き複合】 花き栽培に関する専門技術の習得 ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の習得到達した学生の割合 80%以上	・作業日誌、調査野帳への記帳確認 ・担当品目、ハウス管理に対する日々の観察力や管理技術の習熟度に応じた指導 ・農業技術防除センターや農業試験研究センターからの支援 ・フラワーアレンジメントの技術取得度を高めるため、学生に記録記帳	・作業日誌、調査野帳は習慣づけることができた。 ・バラ、キク、草花と異なる品目の育苗から収穫までの一貫した作業を行い、技術取得ができた。 ・卒論で取り組んだテーマについて、農業試験研究センターから試験研究情報の提供を得た。 ・就職後に即実践できるように、応用技術を学び、写真と記述で記帳した資料を作成した。 (習得到達した割合100%)	A	・次年度は2年生が不在であり、新1年生に対して基礎的な栽培技術および機械操作等を指導	○達成できている
		機械操作およびハウス環境制御設定の習得 ・農薬・液肥散布用機械の操作の習得到達した学生の割合 80%以上 ・作物及び生育ステージに応じた農薬の選定などの自己判断の習得到達した学生の割合 80%以上 ・ハウス内の環境データの解析と制御設定(温度、炭酸ガス、電照等)の習得到達した学生の割合 80%以上	・ハウス内・外の環境データ(気象)を見ながら換気窓、内張カーテン装置などの設定操作の指導助言 ・週1回の定期散布での機械操作習得及び散布農薬の選定への防除研修の実施 ・複合環境制御の研修とハウス操作によるデータ分析の研修の実施(バラ) ・高度な技術習得を行うため先進的農家への現地視察の実施	・週1回行う定期農薬散布用機械の操作技術を取得できた。 ・主要な病気や害虫発生前の予防と発生後の対応について作物ごとの生育ステージに応じて判断できる技術を取得できた。 ・卒論で取り組むバラ栽培では、環境制御技術への取り組みの第一歩としてプロファイnderでのモニタリングで見える化を行い、温度、湿度以外の二酸化炭素濃度を把握できた。 ・その他の品目でも電照技術を学び、ハウス内環境制御技術を取得できた。 ・高度な技術を学ぶため、日本一になった先進農家で現地研修を行い、高度な技術を学ぶことができた。 (習得到達した割合100%)	A		

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント	
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	高い技術力や経営力の習得	【果樹複合】 主要常緑・落葉果樹の生理生態の習得 到達した学生の割合 80%以上	○栽培管理状況の記帳と報告 毎月2回以上 ・当番や実習の観察・実践記録の記帳 ・記帳の確認と指導助言 ・現地での諮問による学生の習熟度の把握 月1回	・記帳は毎日実習後に行い、毎週提出・確認している。 ・記帳はその都度確認して、間違ったりわからない場合は指導を行った。 ・圃場で栽培管理の良かった点や問題点の諮問を行って、学生の理解度を把握するとともに、疑問点を聞いて習熟度の向上に努めた。 (到達した学生の割合100%)	A	1年生時から主体的に管理する樹種を決めて、責任を持って管理・販売させる。	○達成できている	
		果樹の高品質・安定生産技術の習得 到達した学生の割合 80%以上	○1年生時から進路に合わせた担当品目の設定 ・生育調査、果実分析、土壌診断等の実習 ・学生担当品目について生産から販売までの責任制の実施 ・学生主体による品目改善点の検討 ・果試での実習実施 20回/年以上	・みかんの生育調査を10日ごと、果実分析を月1回実施した。調査は1年生だけでできるようになった。 ・それぞれの担当品目について主体的に管理を行い、記帳を行った。販売についても、直売は担当者が中心に行った。 ・栽培管理や商品づくり・販売の改善点については、各自で問題点・改善点を記入し、取りまとめて検討し、全員で共有した。 ・果樹試験場では、実習10回とプロジェクト活動29回を実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A			
		経営能力の向上 ・果樹経営特性の理解 到達した学生の割合 80%以上	○担当品目の経営記帳 100% ・学生による労働時間、必要経費、収量、販売金額等の記帳 ・統計資料等との比較及び指導助言 ・学生主体による品目改善点の検討	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額について記帳を行い、経費を算出した。 ・県の統計資料や品質データ等と収量・品質等の比較を行い、問題点や改善点の指導を行った。 ・品目毎の改善点は、各自記入し、取りまとめて全員で検討し、共有した。 (理解習得した学生の割合100%)	A			
		【畜産】 家畜の性周期、発情兆候、繁殖生理の学習と繁殖技術の習得到達した学生の割合80%以上	・発情観察やホルモン処理による人工授精の実施 ・繁殖牛、繁殖豚の発情観察記録表の作成 ・家畜人工授精講習会の受講 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・発情兆候の観察にもとづいて、繁殖カレンダーに観察結果を記入した。結果、牛で7回、豚で4回、人工授精を実施した。あわせて、超音波診断装置をもちいて子宮の状態を観察した。 ・AI講習会、2年生3名が受講。 ・畜試での実習は2年生が35日間、1年生が20日間実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A	・分娩、哺育が続くため、計画的な畜舎の利用		○達成できている
		家畜栄養の学習と飼料給与と技術の習得到達した学生の割合 80%以上	・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践 ・発育状況把握のための体測実施 毎月 ・発育状況確認のための子牛セリへの参加 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・プログラムに基づいた飼料給与を実践している。 ・毎月、発育状況を確認するための体測を実施している。 ・4月の子牛セリに参加。農大で育成した子牛の販売をおこなった。 ・畜試での実習は2年生が35日間、1年生が20日間実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A			
		家畜ふん尿処理技術の学習と堆肥化技術及び関連機械操作の習得到達した学生の割合80%以上	・堆肥舎での堆肥化処理と圃場還元の実践 ・ローダーやマニアスプレッタ等を用いた作業実習の実施 ・堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・堆肥化処理も順調であり、堆肥の圃場還元、他専攻への堆肥の供給、農試への堆肥の供給もできた。 ・堆肥化処理をおこなう課程での温度変化等の観察をとおして、堆肥化処理への理解を深めた。 ・畜試での実習は2年生が35日間、1年生が20日間実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A			
		飼料作物栽培の学習と飼料生産技術及び関連機械操作技術の習得到達した学生の割合80%以上	・夏作、冬作の飼料作物栽培実践 ・耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する作業実習の実施 ・飼料作物生育状況の観察の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・冬作のイタリアンに関して、37ロール作ることができた。 ・夏作のスーダンに関して、35ロール作ることができた。 ・畜試での実習は、2年生が35日間、1年生が20日間実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A			

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上	漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施 (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術を習得した学生の割合 1年、専科 100% 2年 100% 農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得(1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識について習得させた。 ・加工演習は一次加工を実施し、また、15品目の加工品製造を行った。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材の操作を行った。 (2年) ・シフォンケーキやレトルトコンポート等のより高度な2次加工を実施、14品目の加工製造を行った。 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の実習を行い技術習得した。 ・技術習得した学生の割合100%	A	・より、売れる商品づくりに向けた技術習得の向上	○達成できている
		学生発案によるオリジナル商品化 1商品以上	・農産加工研究会による試作研究への指導 学生の提案を基に、農大産の農作物を利用した商品設計 ・直売での販売動向の把握及び分析	○農産加工研究会による試作研究 学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究の実施 1年(6品目)、2年(7品目) ・学生発案によるオリジナル商品開発及び直売等での販売(8品目) ・製造・販売・製造物品質検査記録の記帳による販売動向や品質管理の把握を実施した。 (技術習得した学生の割合100%)	A	・オリジナル商品の定番化	
資格等の取得向上		カリキュラムの中で必要な資格の合格率100% 大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等 選択性の資格の合格率 50%以上 農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト等	研修の充実 ・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施 ・資格や免許に対応した特別講義の開催 ・小テストの実施及び解説 ・過去問題を活用した指導	必須の免許・資格の取得状況 ・大型トラクター免許 (2年生:29名、1年生:23名、専科生:2名)54名 ・けん引免許 (2年生:29名、専科生:2名)31名 ・家畜人工授精師 (2年生:1名)1名 (必要な資格の合格率 98%) 選択性の免許・資格の取得状況 ・農業技術検定2級(保持者...2年生:6名、1年生:2名)取得者4名 ・農業技術検定3級(保持者...2年生:13名、1年生:10名)取得者11名 ・危険物取扱者(保持者...2年生:1名、1年生:7名)取得者8名 ・毒劇物取扱者(保持者...2年生:3名、1年生:4名)取得者6名 ・フォークリフト(保持者...2年生:26名)取得者38名 ・小型車両系建設機械(保持者...2年生4名、1年生:1名、専科生:1名)取得者6名 ・玉掛け(保持者...2年生:4名、専科生:1名)取得者5名 ・小型移動式クレーン(保持者...2年生:3名、専科生:1名)取得者4名 ・ボイラー(保持者...2年生:18名、1年生:13名)取得者13名 ・フラワー装飾2級(保持者...2年生:1名) ・狩猟免許(保持者...2年生:わな猟12名、第一種銃猟11名)取得者12名(わな)、11名(銃) ・家畜商(保持者...2年生:3名、1年生:2名)取得者5名 ・アーク溶接(保持者...2年生:1名、1年生6名)取得者7名 特別講義の開催、過去問題を活用した指導等の実施 選択性の資格の合格率 49%	B	・合格率向上のための支援体制を整備	○おおむね達成できている ・目標数値には到達していないが、資格取得者が多く十分な数値である

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント	
3	全ての学生の進路決定	進路決定率	進路決定率 100%	進路指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・社会人としてのキャリア教育の実践 5回 ・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援 17人 ・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施 3回 ・若手農業者との意見交換会の開催 2回 ・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回 ・ハローワークとの連携 5回 ・求人情報の提供 随時 ・インターンシップの積極的推進 ・1年生からの進路指導の強化	○進路決定率 100%(31名) ・進路指導専任職員(非常勤)の配置 ・2年生を対象にヤングハローワーク・ジョブカフェ佐賀によるキャリアプランニングの講義 4~6月に5回 (年度末に1年生を対象にキャリアプランニング講義の実施予定) ・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援 18人(2年生:8人、1年生:8人、専科生:2名) ・会社説明会の開催 (6社) ・求人情報の提供 (56社) ・ジョブカフェ佐賀と連携した進路指導の強化	A	・ヤングハローワークや求人情報の積極的な情報収集 ・就職先のOB訪問による状況把握と求められる人材を育成 ・会社説明会等への積極的な参加 ・就職対策の前倒しを実施	○達成できている
4	社会人からの就農者の確保	受講者数	受講者の確保 (基礎講座:10名) (実践講座:10名) ・本人の満足度(5段階での自己評価)や満足以上の割合 80%以上	(基礎講座) ・受講者の確保:13名 ・第1回(11月)の基礎講座の受講申込は10名、受講は7名 ・第2回(2月)の受講申込は7名、受講は6名 (実践講座) ・受講申し込み者は11名、受講者は9名が受講 ・露地野菜コース4名、施設野菜コース4名、果樹コース1名 ・受講者募集は、県ホームページや市町広報紙を活用、実践講座のポスター130部、リーフレット600部を作製し、関係機関へ配布し受講希望者へ情報の提供を行った。 ・農業の基礎的知識の習得のため、専攻毎の実習計画の調整及びの学生講義の聴講の準備・調整などを行った。講義は、希望する科目を全員が聴講。 ・受講者の就農希望地と就農希望品目をもとに先進農家での研修の実施 ・病害虫、土壌肥料や就農支援制度など農業の基礎的なことについて集合研修の開催(3回) ・実習日誌について、用語など必要に応じアドバイスをを行った。 ・農協や農業公社との連携を図りながら、先進農家研修の受入農家の選定や新規就農への指導・助言等を行った。 ・受講者の満足評価:やや満足以上の割合100%	A	引き続き受講者の確保と就農への支援を行う。	○達成できている	

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	大型機械、けん引の免許取得	<ul style="list-style-type: none"> 受講定員の充足率100% 免許合格率 大型特殊:98%以上 けん引:95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 市町との情報共有等、連携を強化し、受講者を確保 市町や関係機関と連携して、受講者の研修直前のキャンセルにも迅速に対応して、欠員が発生しないように対応 受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施 模範運転のビデオを活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○受講定員の充足率101% ・受講者決定については、定員の100%に対して通知した。 ・受講者の研修前のキャンセルには市町と連携したり指導者に声をかけるなどして、受講者を補充するなど迅速に対応し、定員の充足率は350人に対し355人(101%)となった。 ○免許合格率 大型特殊:99% けん引:96% ・免許合格率については、講習開始時に模範運転のビデオを視聴 ・合格レベルに達しない者に対しては、適宜補講を行うだけではなく、マンツーマンで個別指導を行うなどして免許取得レベルの向上に努力した。 	A	免許試験の実施機関である運転免許試験場と調整を図りながら、大特とけん引の研修回数の割合の見直し	○達成できている
	(佐賀農業経営者スキルアップ研修)	<ul style="list-style-type: none"> 受講者数(定員の確保) 4コース 40名 	<ul style="list-style-type: none"> 普及センター等でのプロモーションビデオの活用 募集開始時期の前進化(夏季開催) 新聞、HP等を活用した情報提供 (農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、昨年度の受講者、市町、JA青年部等への周知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員確保に向けて、募集開始時期を前年度より2週間程度前進化し、HPや新聞等への掲載をはじめ、農業士や青年農業士、農業青年クラブ等への周知や、行事開催時のPR、普及センターへのPR動画の照会、JA、市町等へのPR等を行った。 ・冬季開催についても、夏季開催と同様に募集開始時期を前年より1ヶ月程度前進化(9/1)させた。 ・受講者数(コース毎) 農業経営力養成コース 10名 農業経営発展コース(販売力強化) 7名 農業経営発展コース(雇用型・法人経営) 10名 女性農業者コース 10名 受講率92.5% 	B	夏季開催に向けて募集開始時期の前進化を図る。(6月→5月)	○おおむね達成できている
	受講者数	<ul style="list-style-type: none"> 受講者の満足度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(講座前に実施) ・受講者の理解度をアンケート(毎回)で把握しながら、運営委託業者と研修内容を調整し、受講者の満足度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の毎回の研修の理解度等を把握しながら、満足度を高めてもらうように努めた。 ・7~9月まで開催した夏季コース(2コース)の全体的な満足度は ・農業経営発展コース(雇用型・法人経営)100% ・女性農業者コース 82.5% ・冬季開催の2コースについては、調査中 	A	次年度も引き続き、満足度の向上に努める。	○達成できている

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	受講者数 (6次産業化支援研修)	・受講者数の確保 3講座 18名	・普及センター等でのPR活動 6次産業化サポートセンター、農業青年クラブ、農業士への周知 ・6次産業サポートセンター等との打合せ3回以上	○受講者数;3講座 20名(個人14名、2組織(6名)) ・普及センター、6次産業化サポートセンター等を通して募集。農業青年クラブ等へ研修の周知を行った。 ・6次産業化サポートセンター、農政企画課と打合せを実施(7回) ・農業ビジネス化のための先進地視察(1回)	A	普及センター、6次産業化サポートセンター、農政企画課等と連携し、農業者へ研修の周知 2018年食品衛生法改正に向け、食品衛生関係のカリキュラム及び指導等、外部講師を呼び研修の充実	○達成できている
		(基礎研修) ・基礎的知識・技術の習得 概ね理解した受講生の割合80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施(基礎) ・農業ビジネス化のための先進地視察1回 ・受講後のアンケート調査の実施と改善点の次回への反映	○基礎研修受講後の理解度 100%(理解できた56%、ほぼ理解できた44%) ・6次産業化の基礎的な知識・技術習得のための講座を8回実施した。 ・毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックし、理解が不十分なところは理解できるまで指導を行った。	A		
		(実践研修) ・商品につながる試作品づくり 受講者1人1品目以上	・商品づくりと試作研究への指導 個別計画作成、試作研究の演習、試作品の評価等の実施 ・農業ビジネス化のための先進地視察1回 ・受講後のアンケート調査の実施等	○商品化につながる試作品づくりによる技術力向上 ・試作研究演習を実施した。 受講者4人全員 1品目以上試作品製造。 ・6次産業化サポートセンタ等と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討を実施した。	A		
		(応用研修) ・商品化に向けた新製品の開発能力の向上 受講者1人 1組織 1品目以上	・「製品から商品へ」加工品の改良するための試作品づくりの指導 試作研究計画の作成、試作研究の演習、試作品の評価等の実施 ・農業ビジネス化のための先進地視察1回 ・受講後のアンケート調査の実施等	○商品化に向けた新製品の開発能力の向上 ・試作研究演習を実施した。 ・6次産業化サポートセンタ等と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討を実施した。	A		

目標	評価項目	平成29年度目標	目標達成のための方策	結果及び具体的取組	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 80%以上	・各種研修等の実施 (農業青年クラブ) 農業青年会議1回 さが農業力向上セミナー 2回 農業青年冬季のつどい 1回 アンケート調査の実施 等	・農業青年会議 1回(9/11) 参加者36人 多角的な農村ビジネスの取組事例及びスポーツ交流を実施 ・さが農業力向上セミナー 2回(8/5、3/24) GAPについての講演及びクラブ活動充実強化に向けたグループ討議を実施 参加者24人(8/5) ・農業青年冬季のつどい 1回(2/9) 参加者105人 農業青年クラブ員による発表及び農業経営についての全体研修会を実施。	A		
		・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	(青年農業士研修) 全体研修の開催 先進地視察等の実施 県外研修等への派遣 農業士部会活動との連携 アンケート調査の実施	・全体会及び農業士との合同研修会 17名 ・九州・沖縄農業士研修会への参加 8名 ・先進地視察研修(柳川市、鳥栖市ほか 満足度100%(満足及びやや満足) 参加者が8名と少なく、青年農業士の活動支援のあり方等について今後、検討が必要 ・農業士会各部会活動との連携した研修 4名 ・県派遣外研修への参加 2名(高知県、岩手県)	A		
		・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	(農業士) 役員研修会の開催 2回 研修会の開催 農業士・青年農業士合同研修会 1回 九州・沖縄農業士研修会 1回 女性全体研修会 1回 各部会活動の実施(7部会) アンケート調査の実施	・農業士・青年農業士合同研修会 ・役員研修会 県内JA代表者と役員との意見交換会 県農政関係課長との意見交換 ・九州・沖縄農業士研修会 研修会及び現地視察 県内外から農業士等270名の参加 ・農業士女性全体研修会 ・部会活動 7部会で8月以降研修会を随時、実施中 ・アンケートの実施 (満足度82%)	A		

到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80～62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする